

令和2年度山国川水系学識者懇談会

日時：令和2年9月15日（火）15:00～

場所：山国川河川事務所 TV会議

議 事 次 第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 委員紹介
4. 委員長選出
5. 議 事
 - 1) 計画段階評価手続きについて
 - 2) 山国川総合水系環境整備事業 計画段階評価（案）について
 - 3) その他
6. 閉 会

【配布資料】

資料1 山国川学識者懇談会委員

資料2 計画段階評価について

資料3 計画段階評価資料

参考資料 規約

令和2年度山国川水系学識者懇談会 委員名簿

所属	役職	名前	専門分野
北九州市立大学 経済学部	教授	うしふさ よしあき 牛房 義明	環境経済学
大分県立美術館 学芸企画課	課長	かんの たかひろ 菅野 剛宏	歴史・文化・観光
熊本大学 大学院先端科学研究部 社会基盤環境部門 モデル空間研究所	特任教授	こばやし いちろう 小林 一郎	景観工学
西日本工業大学 工学部 総合システム工学科	教授	たかみ とおる 高見 徹	河川工学 流域連携
大分県北部振興局 農林基盤部	部長	のがみ てるよし 野上 輝義	水利
大分生物談話会	顧問	ひの かつのり 日野 勝徳	生物
大分マリンパレス水族館「うみたまご」 飼育部 企画開発室	リーダー	ほしの かずお 星野 和夫	魚類
福岡大学 工学部 社会デザイン工学科	教授	わたなべ りょういち 渡辺 亮一	河川工学
事務局	山国川河川事務所		

五十音順、敬称略

山国川学識者懇談会
計画段階評価手続きについて

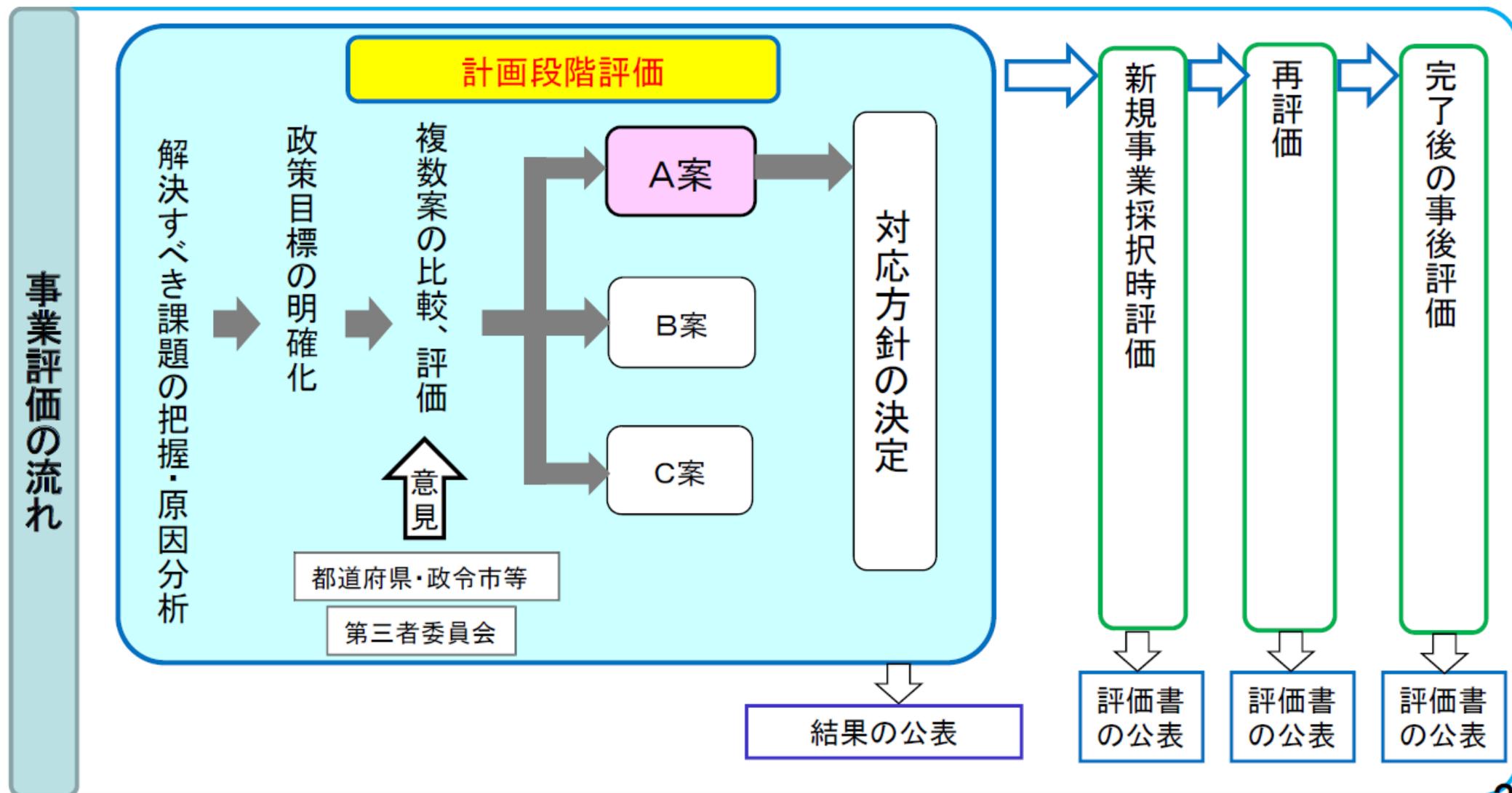
令和2年9月15日

国土交通省 九州地方整備局 山国川河川事務所

計画段階評価の手続きについて

公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図るため、新規事業採択時評価の前段階における国土交通省の取り組みとして、学識経験者等の第三者から構成される委員会等で計画段階評価を実施する。

地域の課題や達成すべき目標、地域の意見等を踏まえ、複数案の比較・評価を実施



山国川水系学識者懇談会
山国川総合水系環境整備事業
計画段階評価(案)

令和2年9月15日

国土交通省 九州地方整備局 山国川河川事務所

山国川環境整備 【計画段階評価】

1. 流域及び河川の概要

(1)流域の概要

山国川は、大分県中津市山国町英彦山(標高1,200m)に発し、同市山国町、耶馬溪町を貫流し、山移川、跡田川等の支川を合わせ、同市三光土田にて中津平野に出て、友枝川、黒川等を合わせ、山国橋下流で中津川を分派して周防灘に注ぐ、幹川流路延長56km、流域面積540km²の一級河川である。



下流部 【河口～三原橋】

三光土田付近から川幅は広くなり扇状地形を呈し、河道は県境を緩やかに蛇行し、大井手堰や平成大堰等による湛水域が広がっている。河口部は我が国でも有数の干潟が広がり、ハマサジ等の貴重な植生植物が生育している。



中流部 【三原橋～山移川合流】

耶馬溪層浸食により奇岩・秀峰が多く、大分県指定天然記念物であるキシツツジが水際の岩肌に生育している。



上流部 【山移川合流～源流】

山地には大分県指定天然記念物のブナの原生林が広がっており、豊かな自然に恵まれている。



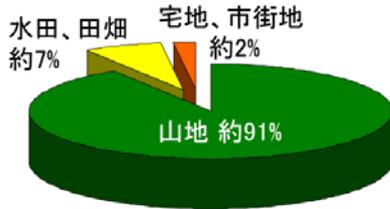
山国川環境整備【計画段階評価】

流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積) : 540km²
 幹川流路延長 : 56km
 流域内人口 : 約3万2千人
 想定氾濫区域面積 : 約29km²
 想定氾濫区域内人口 : 約5万人
 想定氾濫区域内資産額 : 6,700億円
 主な市町村 : 中津市、日田市、吉富町、上毛町 等

土地利用

流域の土地利用は、山地等が約91%、水田や畑地等の農地が約7%、宅地等の市街地が約2%となっている。

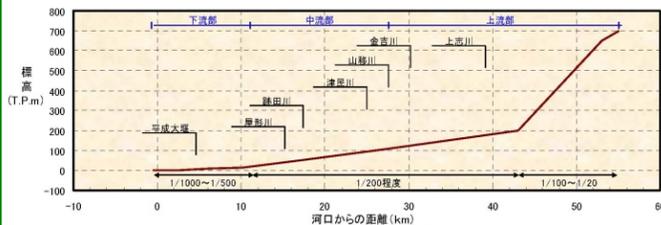


産業

臨海部は、自動車製造等の工業地帯。中津平野は、大分県下最大の穀倉地帯を形成しており、稲作をはじめ、野菜、果樹、畜産等の商品作物の生産、特に、丘陵部を利用したなし、ぶどう等の果樹栽培が盛んである。

地形

上流部や山移川、津民川の一帯には、河川沿いに河岸段丘が分布する細長い谷底平野が形成され、その河床勾配は、上中流部で1/200 以上、下流部でも1/500~1/1,000程度と急勾配。



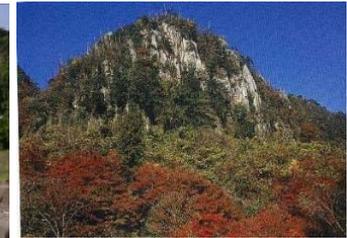
山国川河道縦断面図

自然環境

山国川流域は英彦山をはじめ犬ヶ岳、黒岳等の山地に囲まれ、耶馬日田英彦山国定公園及び名勝耶馬溪の指定を受け、その景勝地を生かした観光産業が重要な位置を占めている。下流部には河川の風景と調和した中津城、中流部には競秀峰が連なる青の洞門、上流部の溪谷には秋の紅葉の季節に美しい景観を見せてくれる深耶馬溪がある。



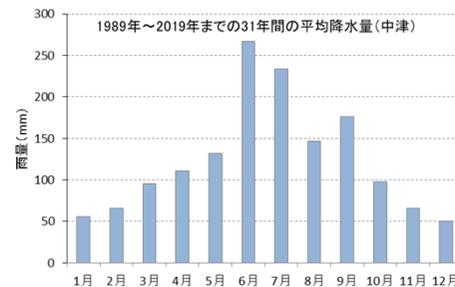
競秀峰(青の洞門)



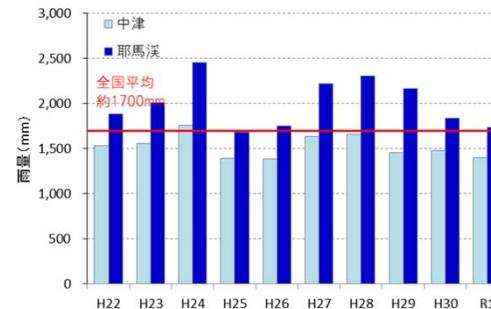
深耶馬溪

降雨特性

流域の気候は、瀬戸内海の西に接し、日本海へも比較的近く、九州の脊梁山脈にも接しているため複雑な気候特性を持っている。上流域は山地型気候区に属し、海拔300~400m以上の山地のため気温が低く降水量も多い。下流域は準日本海型気候区に属し、冬の北西季節風の影響が、大分県内の気候区の中では最も顕著である。年間降水量は、上流域の耶馬溪で約1,900mm、下流域の中津で約1,500mm、上流域では全国平均以上の雨が降っている。また、その多くは梅雨性の降雨及び台風性の降雨によるものである。



山国川下流域の月別降水量(中津)



年間降水量 出典) 気象庁HP



年平均降水量の分布(mm) 出典) 大分工務事務所65年のあゆみ

山国川環境整備 【計画段階評価】

(2)河川空間の利活用状況

- ・山国川直轄区間の年間利用者総数は約28万人(平成26年度「河川水辺の国勢調査」推計値)であり、多くが散策、水遊び等で利用されている。
- ・下流部～上流部にかけて耶馬溪鉄道の軌道跡地を利用した「メイプル耶馬サイクリングロード(写真①)」が整備され、中流部より上流側は山国川沿いにルートが設定されており、特有の景観を楽しみながらサイクリングする利用者が多い。
- ・上流部に位置する支川山移川の耶馬溪ダム(写真②)は、ウェイクボードや水上スキー等の水面利用が盛んであり、秋の紅葉狩りの時期には全国から多くの観光客が訪れる。
- ・中流部では、青の洞門や競秀峰がある青地区(写真③)において年間170万人が訪れる観光名所として有名で、また、アユ釣りやカヌー体験(写真④)等の利用がされている。
- ・下流部の上毛町では、国道10号と山国川が交差する要衝に防災ステーションの計画が進められている。大井手堰周辺の右岸では8月に鶴市花傘鉾祭り(写真⑤)が執り行われ、山国川総合グラウンド(写真⑥)は地域住民の散策やスポーツの場となっている。中津観光の中核をなす中津城では、隣接する中津川河川敷公園での花火大会観覧(写真⑦)や環境学習(写真⑧)などのイベントの場として利用されている。



山国川環境整備【計画段階評価】

(3)歴史・自然環境(直轄区間)

- ・山国川の水利用は、主に農業用水のほか、発電や工業用水、中津市及び京築地区けいちく※、さらには流域から遠く離れた北九州市の水道用水として、有効に利用されている。
※行橋市、苅田町、みやこ町、豊前市、築上町、吉富町、上毛町
- ・縄文時代早朝から古墳時代にかけての遺跡が多く見られる。「大井手堰」おおいでせき「荒瀬井堰」あらせいぜきの利水施設や、「耶馬溪三橋」やばいと呼ばれる耶馬溪橋、羅漢寺橋、馬溪橋や、近代土木遺産となった「山国橋」やまくに等の文化財が点在する。
- ・上流部の環境は、河岸にエノキ・ムクノキ等の河畔林、水辺にツルヨシ群落が分布し、柿坂付近の水際の岩肌には大分県指定天然記念物であるキシツツジが生育、重要種であるオヤニラミ、アカザ等の魚類が生息している。水辺や砂礫河原にはヤマセミ、シギ・チドリ類等の鳥類が生息している。
- ・下流部の環境は、水際には重要種であるタコノアシが生育、オイカワ、ウグイ、タナゴ類等の魚類が生息し、下宮永堰直下の砂礫帯などにアユの産卵場が点在する。ヨシ群落がオオヨシキリの繁殖場、堰湛水域がカモ類の越冬地となる。
しもみやながせき



耶馬溪橋(大分県指定有形文化財)
通称オランダ橋1923年架橋。日本で唯一の8連石造りアーチ橋で、橋長116mは日本最長。



羅漢寺橋(大分県指定有形文化財)
1920年架橋。3連石造りアーチ橋で、橋長89mは日本3位



馬溪橋(大分県指定有形文化財)
1923年架橋。5連石造りアーチ橋で、橋長82.6mは日本4位。



山国橋(近代土木遺産)
1934年(昭和9年)、交通量の大幅な増加に伴い、橋脚を下流側に拡幅して上部をコンクリート桁へと改築した。



キシツツジ
(大分県レッドデータブック EN:絶滅危惧 I B類)



オヤニラミ
(環境省レッドリスト EN:絶滅危惧 I B類)
(大分県レッドデータブック NT:準絶滅危惧)



ヤマセミ
(福岡県レッドデータブック NT:準絶滅危惧)



下宮永堰下のアユの産卵場
しもみやながせき

山国川環境整備【計画段階評価】

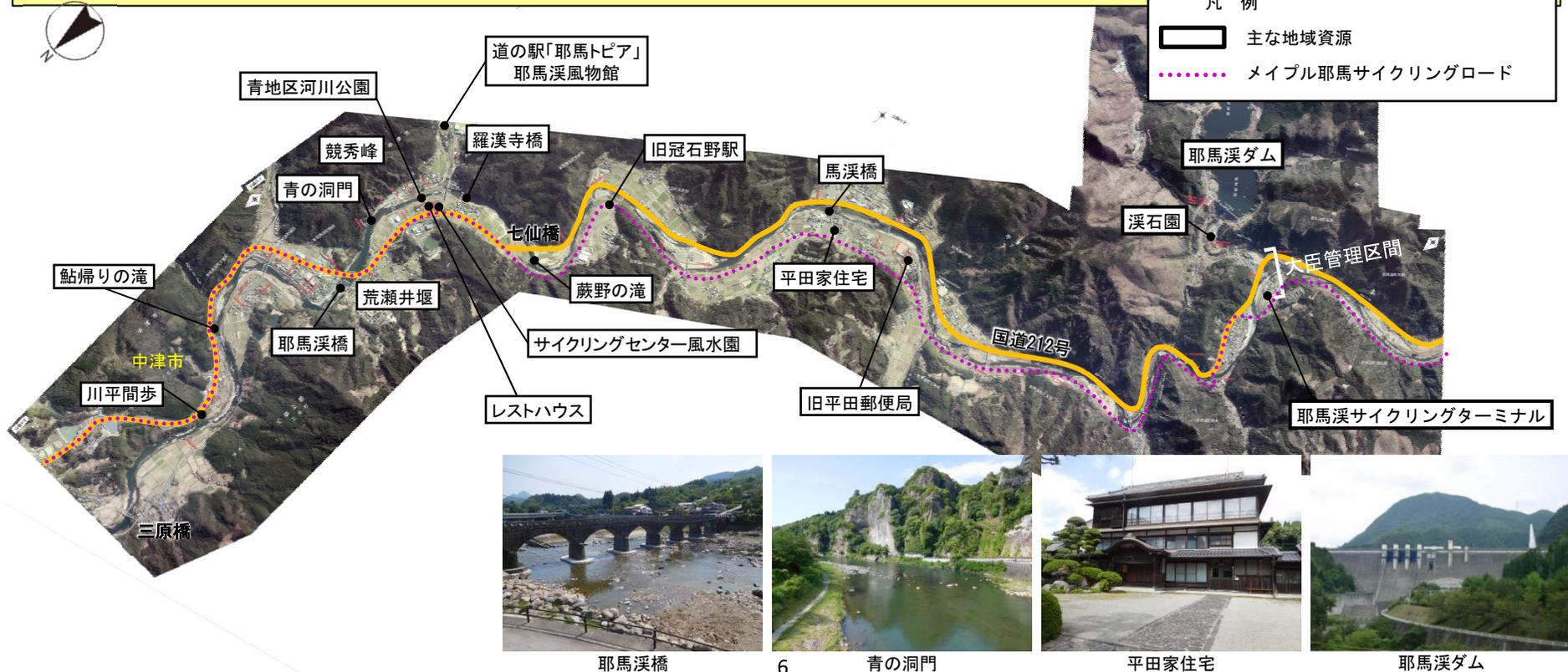
(2) 山国川中流部の状況【三原橋～管理区間】

- ・耶馬溪サイクリングターミナルを起点に山国川沿いにメイプル耶馬サイクリングロードが通っており、多くのサイクリストが四季折々の景観を楽しんでいる。
- ・平田地区では、馬溪橋や平田家住宅、旧平田郵便局などを活かした地域住民によるにぎわい作りの取り組みが展開されている。
- ・競秀峰や青の洞門、耶馬溪橋、羅漢寺橋などの歴史・景観資源を有する青地区は、山国川特有の景観を求め多くの観光客が訪れる。

【主な地域資源】 荒瀬井堰、耶馬溪ダム、溪石園、耶馬溪サイクリングターミナル、旧平田郵便局、平田家住宅、サイクリングセンター風水園、レストハウス、青の洞門、耶馬溪三橋(耶馬溪橋、羅漢寺橋、馬溪橋)、鮎帰りの滝

【アクセス性】

<道路> 国道212号



山国川環境整備【計画段階評価】

(3)対象とする区間の検討

	下流部 【河口～三原橋】	中流部 【三原橋～管理区間】
沿川市町の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・中津市、吉富町、上毛町の3市町が連携し、山国川沿川における水辺拠点をサイクリングルートで周遊することにより、水辺とまちづくりが融合したより良い河川空間の形成を目指した取り組みが進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山国川沿川では新たな水辺拠点整備は具体化していない。
河川・沿川の利用状況	<p>〈上毛町地区〉: 国道10号と山国川が交差する箇所に防災ステーションの建設が予定されており、川の駅やサイクリングターミナルが併設されることからカーヌーやサイクリング拠点としての利用ニーズがある。</p> <p>〈吉富町地区〉: 山国川総合グラウンドはスポーツ公園として利用されてきたが、キャンプ場等の新たな利用ニーズにあわせた再整備を検討している。また、吉富駅前で開催されているチャレンジショップやマルシェを河川敷で展開する取り組みが進められている。</p> <p>〈中津市地区〉: 中津城を中心とした観光資源や祭り等のイベントが多数あり、多くの観光客が訪れており、イベントや出店等を水辺空間まで拡大する企画を進めている。また、地元NPOにより、干潟を活用した環境学習が行われている。</p> <p>【主な関連資源】 上毛町→・防災ステーション ・上毛スマートIC ・大型商業施設 吉富町→・山国橋 ・山国川総合グラウンド ・吉富駅 中津市→・中津城、中津駅、花火大会 ・鶴市花傘鉾祭り</p>	<p>競秀峰<small>きょうしゅうほう</small>や青の洞門<small>やばけい</small>、耶馬溪橋<small>らかんし</small>、羅漢寺橋などの歴史・景観資源を有する青地区は、山国川特有の景観を求め多くの観光客が訪れる。</p> <p>平田地区では、馬溪橋<small>ばけい</small>や平田家住宅、旧平田郵便局などを活かした地域住民によるにぎわい作りの取り組みが展開されている。</p> <p>耶馬溪サイクリングターミナルを起点に山国川沿いにメイプル耶馬サイクリングロードが通っており、多くのサイクリストが四季折々の景観を楽しんでいる。</p> <p>【主な関連資源】 中津市→・耶馬溪三橋(耶馬溪橋、羅漢寺橋、馬溪橋) ・競秀峰(青の洞門) ・平田家住宅、旧平田郵便局 ・耶馬溪サイクリングターミナル ・メイプル耶馬サイクリングロード</p>
アクセシビリティ	<p>〈道路〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東九州自動車道 上毛スマートIC 1500m ・国道212号線、国道10号線 <p>〈鉄道〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR日豊本線 吉富駅 300m、中津駅 1000m <p>※距離は山国川からの直線距離</p>	<p>〈道路〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道212号
対象	○ 検討対象とする	検討対象としない。

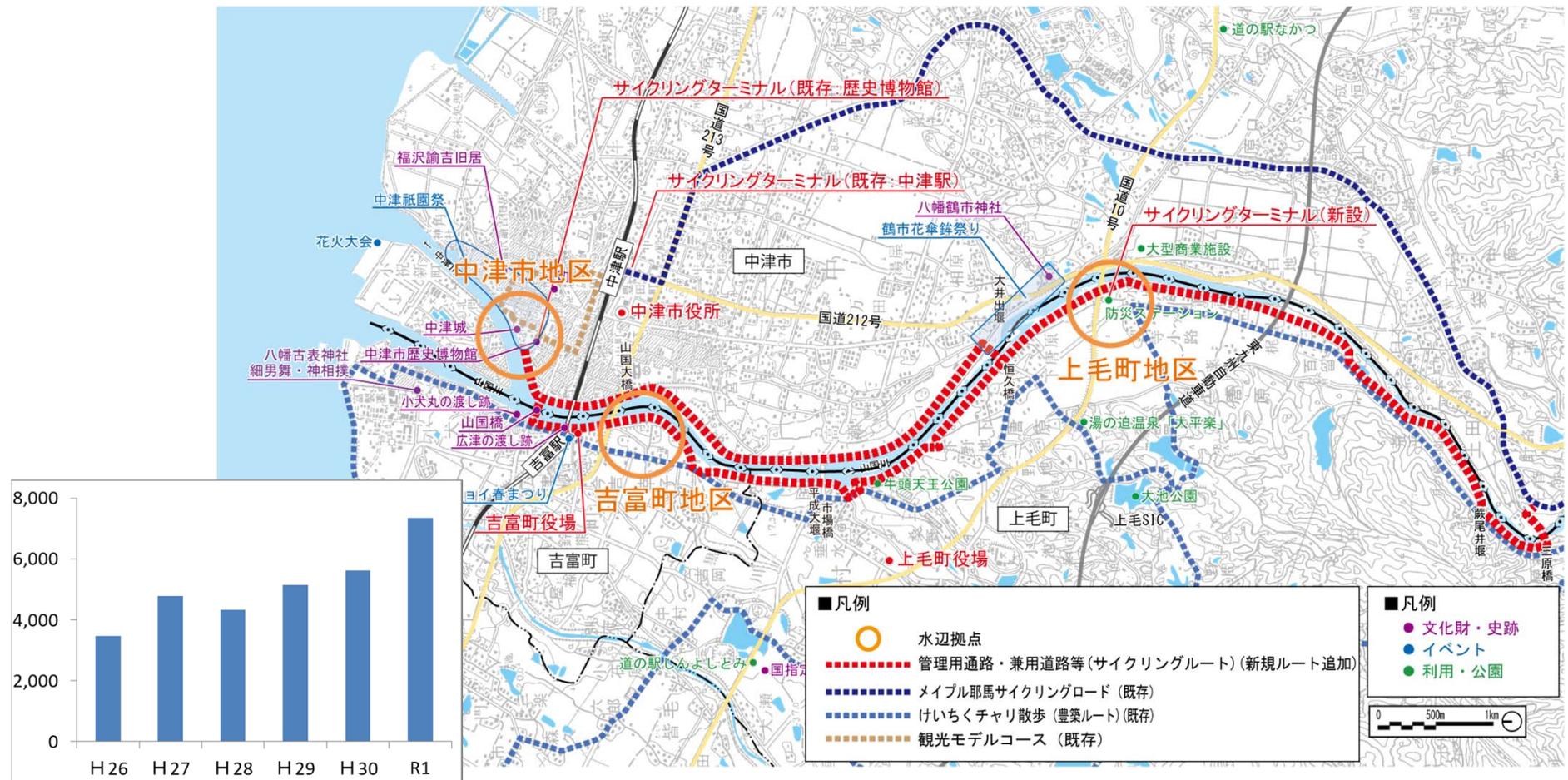


- ・下流部の上毛町では山国川と国道10号の結節点に防災ステーションを整備予定であり、吉富町では河川空間を活用したレクリエーション拠点作りの取り組みが進められ、中津市では中津観光イベントや出店等を水辺空間まで拡大する企画が進められている。さらに、上毛スマートICの開設により、下流部へのアクセシビリティが向上している。
- ・下流部では、水辺利用への地域の熱意の高まりを受け、3市町が連携した「かわまちづくり」の取り組みが推進されているが、中流部では水辺利用のニーズが十分に高まっておらず水辺利用の方針が具体化されていない。
- ・下流部において水辺利用の機運が高まっていることから、山国川下流部に焦点を当てて評価を実施する。

山国川環境整備【計画段階評価】

(4) 取組概要【山国川下流部全体】

- ・山国川に面する上毛町、吉富町、中津市は「定住自立圏の形成に関する協定」を結び、圏域を繋ぐネットワーク整備の一環として、圏域の交通ネットワークを活用した「広域観光ネットワークを形成する」ことで、圏域の観光振興及び圏域内外の住民との交流を推進している。
- ・上毛町、吉富町、中津市は、下流部の3地区にそれぞれの特色を活かした水辺拠点の整備を行うことで、魅力向上を図り、交流人口や観光客等の増加を目指す取り組みを進めている。
- ・河川沿いを通る中上流の「メイプル耶馬サイクリングロード」は観光資源の周遊が可能で、自治体において下流部の堤防兼用道路等を活用した新たな河川沿いルートの検討が進められており、3地区の水辺拠点や地域資源を結ぶことにより周遊性と魅力向上を目指している。



山国川環境整備【計画段階評価】

(5-1) 取組概要【上毛町地区】

- ・東九州自動車道の開通に伴い、上毛SICが平成27年に開通したことから、今後、九州・中国地方からの集客が見込まれる。また、上毛町地区は、国道10号からのアクセス性が良く、対岸に集客力の高い大型商業施設があり、地域内外から多くの人が集まる地域である。
- ・令和2年3月に河川防災ステーションが新規登録され、川の駅、カヌー艇庫、サイクリングターミナルが併設される計画で、防災機能を有している。
- ・上毛町の総合計画では、関連施設のネットワーク化や県内・県外の周辺自治体との連携により、新たな観光拠点づくりを推進することとしており、平常時には観光客、地域住民等にサイクリング、カヌー等の自然体験ができる水辺空間の創出を予定している。



当該地区と対岸の大型商業施設



山国川におけるカヌー利用状況（他地区）



山国川環境整備【計画段階評価】

(5-2) 課題と原因【上毛町地区】

【課題】

- ・上毛町は、防災ステーションの計画で川の駅、カヌー艇庫、トイレなどの整備を予定しているが、高水敷や水辺に近づくことができず、防災ステーションから水辺への連続性がなく、防災ステーションと一体的な利活用を行う空間が確保されていない。

【原因】

- ・堤防から川側へ降りるためのアクセス路や、水際のアクセス路がなく、水辺へ安全に近づけない。
- ・高水敷に樹木、草木が繁茂しており、安全な利用ができない。



防災ステーションの整備が予定されており、平常時の利用においてカヌーなどの水辺の利用が計画されているが、水辺へのアクセス路がなく高水敷地も草木が繁茂し安全な利用ができない。



堤防から川側へ降りるアクセス路がない



樹木が繁茂し、水辺へ安全に近づけない

山国川環境整備 【計画段階評価】

(6-1) 取組概要【吉富町地区】

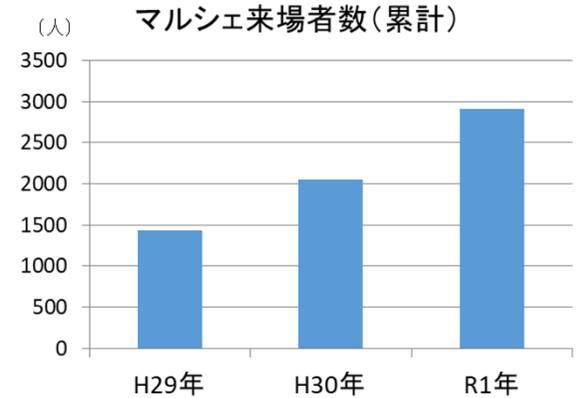
- ・山国川沿川はJR吉富駅から近く、東九州自動車道上毛SICも供用されたことで広域幹線からのアクセスが向上し、観光客の来訪も増加している。
- ・吉富町独自に「山国川緑地かわまちづくり検討会」を設立し、河川敷の利活用、維持管理の具体化に向けた意見交換を行っており、キャンプ場やドックランなど水辺空間での賑わい創出の利用ニーズがある。
- ・また、平成28年度から町をあげて、来街人口の増加等を目的に、チャレンジショップの運営、マルシェの開催等を通じて賑わいづくりを推進している。駅前で実施しているマルシェ、チャレンジショップは入店希望者が多く、出店者数の増加、駐車場の確保等の観点から、今後、河川沿いでの開催を進めている。
- ・現在まで実施してきたマルシェやチャレンジショップなどの事業の継承等を目的に町出資で「(株)ツクローネ吉富」が設立され、今後、イベントや祭りの企画、開催など様々な取組が展開される。
- ・水辺空間を活用した河川敷でのキャンプ場やドックランを運営するとともに、マルシェを定期的を開催することにより一層の誘客を見込んでおり、上毛町、中津市連携による地域活性化に向けた熱意も高く、整備が急がれる。



山国川緑地かわまちづくり検討会
住民参加により、山国川沿川の利活用の具体化について議論が進められている。



マルシェ
町の中心部の駅周辺に賑わいを創り上げる「ガールdeマルシェ」を定期的開催している。



(株)ツクローネ吉富
町が100%出資し設立した街づくり会社



チャレンジショップ
創業希望者を対象に町内のコンテナ式店舗を貸し出し、出店者が実践の中で独立開業できるよう支援している。



よしみワッショイ春祭り
九州一小さな町、吉富町の一大イベント。

山国川環境整備【計画段階評価】

(6-2) 課題と原因【吉富町地区】

【課題】

- ・河川敷はスポーツや散策を行う場所となっているが、水辺で楽しめる環境がなく、憩いの場としての利用が少ない。
- ・町ではキャンプ場、ドッグランやマルシェを河川沿いで開催する計画があるが、利用できる環境が整っていない。

【原因】

- ・利用者の休憩場所やトイレ、水場など、利便施設が十分でない。
- ・水際が急勾配になっており、草本が繁茂しており、安全に水辺に近づけない。
- ・高水敷はあるが、階段が少なく、水辺を楽しみ散策する通路がない。

憩いの場としての利用が少ない



トイレ等の利便施設が十分でない



水際の傾斜が急勾配で水辺に近づけない

草本が繁茂しており安全に水辺に近づけない



高水敷へアクセスする階段が少なく、利用環境が整っていない

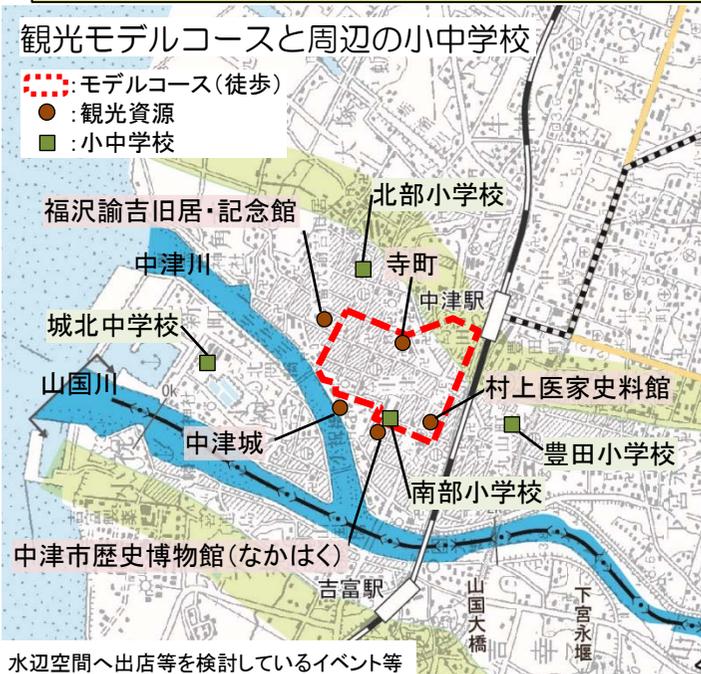


水辺を楽しみ散策する通路がない。

山国川環境整備【計画段階評価】

(7-1) 取組概要【中津市地区】

- ・中津市は中津駅周辺を中心に年間400万人を超える観光入込客数を有し、東九州自動車道の全線開通、中津日田道路の一部開通に伴い、九州・中国地方からの集客が見込まれる。
- ・中津城や中津大神宮等がある中津城周辺は、中津駅からもほど近く、中津の中心的観光地として日常的に多くの観光客(イベント:観月祭、花火大会等開催)で賑わい、また環境学習の場として利用されている。
- ・河川側へのサイクリングルートも想定し、サイクリングターミナルを備えた歴史博物館(R1.11オープン)では観光ガイドが配置されており、歴史探索ウォークラリー、歴史好き等のニーズに合った観光プランの作成、PRを行っている。今後は、各種メディア、旅行会社との連携を図り、既存の観光資源を活用しつつ、城下町観光を推進していく。
- ・中津市の総合計画では、山国川上下流域を結ぶ観光振興とまちのにぎわいづくり、インバウンドや体験型観光を推進しており、中津市への外国人観光客数は今後も増加が見込まれ、インバウンドに対応した観光案内サインの設置等を進めている。
- ・今後、観光客により一層、城下町“中津”を感じてもらえるよう「観月祭」等のイベントを河川沿いの水辺空間を活用した範囲まで拡大する新たな催しや、各種イベント時に水辺空間への出店等の企画を進めており、吉富町、上毛町連携による地域活性化に向けた熱意も高く、整備が急がれる。



夏の風物詩。花火は中津祇園の初日のイベントとして、市内外から多くの観衆で賑わう。



(大分県統計資料)
外国人観光客の増加
大分県を訪れる外国人観光客数は近年増加しており、中津市も観光地としての魅力向上に取り組んでいる。

イベント等	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
歴史探索ウォークラリー												
城下町中津のひなまつり												
二の丸公園桜まつり												
中津城たにし祭												
中津祇園祭り・中津市民花火												
観月祭(城あかり)												13

中津城周辺に多数の灯籠が設置され、秋の幻想的な風景に多くの観衆が集まる。

山国川環境整備 【計画段階評価】

(7-2) 課題と原因【中津市地区】

【課題】

- ・観光客が多く集まる地区で、観光客をもてなす工夫として、年間を通じたイベント拡大や出店等により更なる誘客を計画しているが、ぬかるみが生じ水辺を散策する環境がなく、また山国川(中津川含む)まで導線が確立させておらず、足を運ぶ人が少ない。
- ・地元NPOにより小学生等を対象とした環境学習が行われているが、水辺へ安全に近づけない。

【原因】

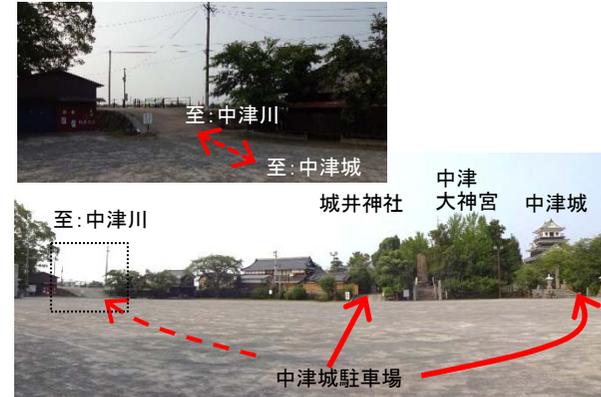
- ・高水敷はあるが、水辺を楽しみ散策する通路がなく、また、雨が降ると高水敷に水たまりや、ぬかるみができ、イベント等で利用しにくい。
- ・中津城や中津歴史博物館周辺から観光客等を山国川へ導く案内が確立されていない。
- ・水辺へ下りる階段は踏面が凸凹で、水際は草木が繁茂し、水辺へ安全に近づけない。



水辺を楽しむ周遊する通路がない。



イベント時に車両が通行することでぬかるみができ、利用しにくい。



中津城側から河川への導線が分かりにくい。



河岸が浸食され、安全に利用できない。



環境学習等で多くの子どもが利用するが、水辺に下りる階段が凸凹で、かつ草木が繁茂し、安全に水辺に近づけない。

山国川環境整備【計画段階評価】

(8) 今後の展開【山国川下流部全体】

下流部の周辺環境・状況変化を踏まえ、山国川下流地区かわまちづくりの取り組みをより効果的なものにし、「かわ」と「まち」を活性化するために、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤等の「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、上毛町、吉富町、中津市、地域住民等と河川管理者が連携し、水辺の整備・利用に係る取り組みを支援する。

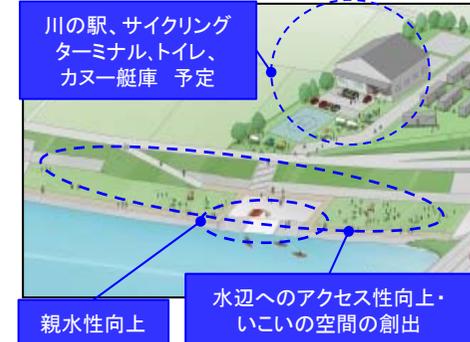
①上毛町地区：防災ステーション・川の駅・サイクリングターミナルによるアクティブな水辺拠点の創出

◆地域住民からの意見・情報

- ・観光客、地域住民にカヌーやサイクリング等の自然体験を楽しんでもらう拠点となるよう整備が必要。
- ・防災ステーションと連携し、自然体験を楽しむため、水辺へのアクセス、親水性の向上を図り、安全に高水敷が利用できる憩いの空間の創出。
- ・対岸の大型商業施設との連携も視野にカヌー等の水辺利用促進。



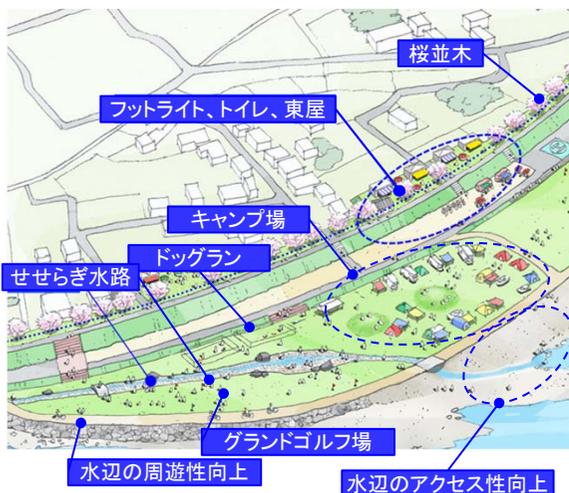
カヌー利用イメージ



②吉富町地区：アクティブなスポーツ・レクリエーション拠点の創出

◆地域住民からの意見・情報

- ・地域の憩いの場(キャンプ、スポーツによる健康増進等)としての利用、沿川のサイクリングコースの設定とその立ち寄り拠点(休憩場等)として活用が必要。
- ・マルシェの展開やイベント時の出店、キャンプ場として利用するための整備が必要。



吉富駅前で行っているマルシェ

- ・キャンプ場やドックラン等のレクリエーション拠点を整備、堤防上の桜並木、東屋、トイレの整備やせせらぎ水路により地域の憩いの水辺空間を創出
- ・マルシェやチャレンジショップ等の河川空間への展開によるにぎわいの創出。

③中津市地区：中津城の歴史的空間と河川空間の一体的な魅力的空間の創出

◆地域住民からの意見・情報

- ・定期的にイベント等を行うことが効果的であり、中津城周辺の魅力向上のための整備が必要。
- ・外国人観光客の増加に伴い、駅からの導線を繋ぎ、必要な整備(サイン、休憩スポット等)を整えば観光客の魅力向上につながる。

- ・観月祭等のイベントや出店、環境学習(小学校、地元NPOなど)において、水辺に安全に近づけるよう水辺のアクセス・周遊性を向上。
- ・観光案内サインにより観光客等を河川側へ誘導し、水辺空間への人の動線強化。



インバウンドに対応した観光案内サイン設置

山国川環境整備【計画段階評価】(目標設定)

3. 政策目標、具体的な達成目標の設定

(1)政策目標

- ・まちづくりと一体となった水辺空間を創出し、新たな賑わいを創出するとともに地域活性化に貢献する。
- ・中津駅をはじめ多くの観光客が集まる市街地と「水辺拠点」をサイクリングルートで結ぶことにより、山国川の自然、歴史資源等の魅力を活用し観光を中心としたまちづくりに貢献する。

(2)具体的な達成目標

- ①上毛町地区:防災ステーション・川の駅・サイクリングターミナルによるアクティブな水辺拠点の創出
- ②吉富町地区:アクティブなスポーツ・レクリエーション拠点の創出
- ③中津市地区:中津城の歴史的空間と河川空間の一体的な魅力的空間の創出

(3)整備に向けた取り組み

- ・河川管理者の支援は基盤整備、占用許可準則の緩和等の実施。
- ・上毛町では、国道10号沿いに防災ステーションの整備が計画されており、上毛町による川の駅、サイクリングターミナル、トイレなどを整備することで、平常時における地域交流の場としての利用が計画されている。吉富町は、山国川沿川でのキャンプ場、ドッグラン、グラウンドゴルフ場を計画しており、今後は河川域へのマルシェやチャレンジショップ等の展開を念頭においた社会実験を通じて都市・再生等利用区域の指定の可能性を検討する。中津市は、「観月祭」を河川沿いの水辺空間を活用した範囲まで拡大する新たな催しや出店等の企画を進めており、令和元年11月にサイクリングターミナルを併設した中津市歴史博物館を整備しているほか、インバウンドにも対応した観光案内サイン設置の取り組みを進めている。また、山国川沿川において、周辺小学校による継続的な河川環境学習を実施している。
- ・さらに、上記の1市2町は、「九州周防灘地域定住自立圏共生ビジョン」に基づく「定住自立圏の形成に関する協定」を締結し、相互連携によるまちづくりの取り組みにより、圏域の観光の振興及び圏域内外の住民との交流を推進している。
- ・既存サイクリングルートの魅力発信と課題抽出を企図したサイクリングイベント(社会実験)を実施。県内外から幅広い年齢構成で116名が参加し、継続的なイベント実施の意見が多かった。今後は各拠点で、サイクリングやマルシェ等、水辺の賑わいの社会実験を実施する予定。

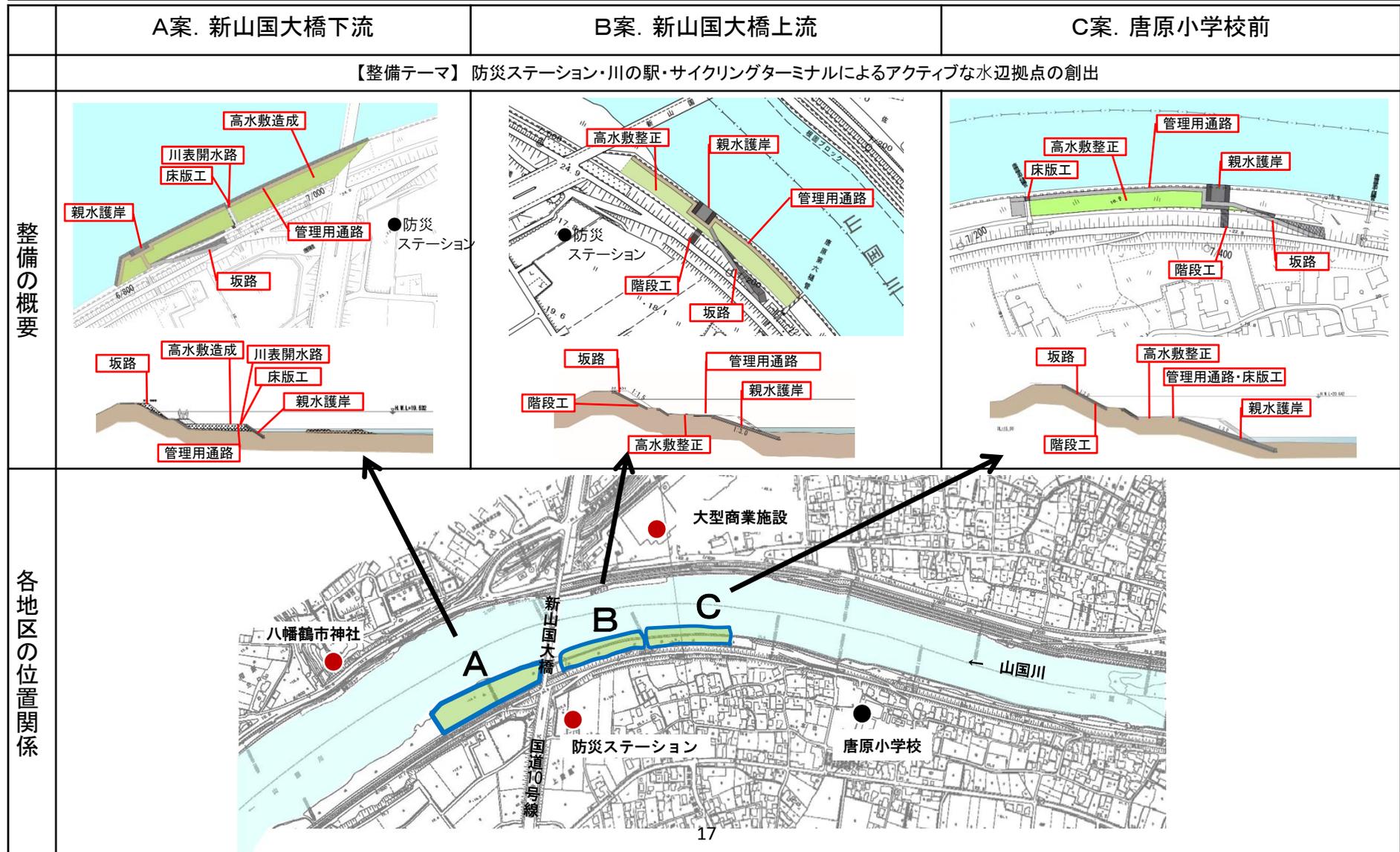
(4)期待される効果

- ・上毛町地区では、防災ステーションと連携した親水施設の整備を行うことにより、カヌー体験、防災学習、環境学習など、川を使って学び、遊べる多様な平常時の利活用が期待される。
- ・吉富町地区では、レクリエーションの拠点として地域住民内外からの活発な利用による開放的な利活用空間の充実、チャレンジショップ、マルシェの実施により、民間事業者の参入による地域活性化が期待される。
- ・中津市地区では、観月祭会場としての活用など、中津城周辺に多数存在する観光スポットと連携することで、地域活性化に繋がる。また、河川協力団体等と連携した環境学習などを行うことにより、川で学び遊べる多様な利活用が期待される。
- ・河川沿いにサイクリングルートを設定することで、既に設定されたサイクリングルートとの連続性が生まれ、山国川の周遊性、親水性が高まり、中津城、山国橋等の観光資源と繋がることにより、山国川下流部全体の観光振興や地域活性化が期待される。

山国川環境整備【計画段階評価】

4. 複数案の提示、比較、評価【上毛町地区】

- ・山国川左岸上毛町地区周辺での環境整備の検討にあたり、当該エリアの課題を解消するための対策案について複数案を抽出し、比較した。
- ・複数案は、①カヌー等の乗降ができる平場が確保できること、②防災ステーションとの連携がしやすいよう近隣に位置すること、③上毛町域であること、の観点から下記3箇所を抽出した。



山国川環境整備【計画段階評価】

4. 複数案の提示、比較、評価【上毛町地区】

比較案	A案. 新山国大橋下流 (山国川6k 800付近)	B案. 新山国大橋上流 (山国川7k 200付近)	C案. 唐原小学校前 (山国川7k 800付近)	
対象地区の特性	<ul style="list-style-type: none"> 上毛SICから約2.5km 隣接地に上毛町の防災ステーションが整備される。 幹線道路からのアクセスが良く、隣接する防災ステーションと連携した水辺整備により、大きな集客効果が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 上毛SICから約2.5km 隣接地に上毛町の防災ステーションが整備され、対岸には大型商業施設がある。 幹線道路からのアクセスが良く、防災ステーションや大型商業施設と連携した水辺整備により、大きな集客効果が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 上毛SICから約2.5km 隣接地に上毛町の防災ステーションが整備され、対岸には大型商業施設がある。 小学校が隣接しており、環境学習等の場としての利活用が期待できる。 幹線道路からのアクセスが良く、防災ステーションや大型商業施設と連携した水辺整備により、大きな集客効果が期待できる。 	
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> 高水敷造成 親水護岸 坂路 床版工 管理用通路 川表開水路 	<ul style="list-style-type: none"> 親水護岸 階段工 坂路 高水敷整正 管理用通路 	<ul style="list-style-type: none"> 親水護岸 床版工 坂路 階段工 高水敷整正 管理用通路 	
評価軸	実現性	<ul style="list-style-type: none"> 利用にあたり高水敷の造成が必要となる。 山国川に面した高水敷を造成することで、カヌー等の乗降が可能な水辺整備が可能。 現在、未利用地であり、利用の柔軟性は高い。 防災ステーションのカヌー艇庫等、平常時の利用施設を地元自治体が主体となり進めるため、利用の自立・継続が期待できるが、利用施設が最も近接しているB案より劣る。 	<ul style="list-style-type: none"> すでに高水敷があり、新たな造成なしでも利用が可能。 現在、未利用地であり、利用の柔軟性は高い。 防災ステーションのカヌー艇庫等、平常時の利用施設が他の案に比べ近接し、地元自治体が主体となり進めるため利用の自立・継続が最も期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> すでに高水敷があり、新たな造成なしでも利用が可能。 現在、未利用地であり、利用の柔軟性は高い。 小学校が隣接しており、環境学習等の場としての利活用が期待できる。 防災ステーションのカヌー艇庫等、平常時の利用施設を地元自治体が主体となり進めるため、利用の自立・継続が期待できるが、利用施設が最も近接しているB案より劣る。
	アクセス性	<ul style="list-style-type: none"> 国道10号線に面しておりアクセス性がよい。 特に上毛SICから約2.5kmと近く、遠方からの来訪も期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国道10号線に面しておりアクセス性がよい。 特に上毛SICから約2.5kmと近く、遠方からの来訪も期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国道10号線に面しておりアクセス性がよい。 特に上毛SICから約2.5kmと近く、遠方からの来訪も期待できる。
	観光機能	<ul style="list-style-type: none"> 防災ステーションと連携した利活用による新たな観光拠点として期待されるが、防災ステーションとの離隔が約150mとやや離れるため、カヌーの運搬などの利便性はB案に劣る。 川の駅、サイクリングターミナル等との連携により長時間の滞在が可能となり、新たな観光拠点として期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災ステーションから約50mと最も近く、整備予定のカヌー艇庫、トイレ等の設備を活用することでカヌー等の水面利用時の利便性が高まる。 川の駅、サイクリングターミナル等との連携により長時間の滞在が可能となり、新たな観光拠点として期待される。 対岸の大型商業施設との連携により、より大きな集客効果が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災ステーションと連携した利活用による新たな観光拠点として期待されるが、防災ステーションとの離隔が約300mとやや離れるため、カヌーの運搬などの利便性は他案に劣る。 川の駅、サイクリングターミナル等との連携により長時間の滞在が可能となり、新たな観光拠点として期待される。 対岸の大型商業施設との連携により、より大きな集客効果が期待できる。
	経済性 (コスト)	<ul style="list-style-type: none"> 整備及び維持管理費が他より高い。 完成までに要する費用 約3.9億円 維持管理に要する費用 約1.2億円 (50年間) 	<ul style="list-style-type: none"> 最も安価である。 完成までに要する費用 約2.0億円 維持管理に要する費用 約0.7億円 (50年間) 	<ul style="list-style-type: none"> 整備費がB案より若干高い。 完成までに要する費用 約2.2億円 維持管理に要する費用 約0.7億円 (50年間)
	維持管理の持続性	<ul style="list-style-type: none"> 適切な維持管理により持続可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な維持管理により持続可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な維持管理により持続可能。
	地域社会への影響	<ul style="list-style-type: none"> 地域の構想や、水辺の賑わいによる地域活性化への貢献が可能だが、利用施設が最も近接しているB案より劣る。 観光やスポーツ利用を目的とした河川内への車両の進入が想定されることから、確実に誘導する必要がある。 施工中の工事車両の動線は確保されており、工事による周辺地域への影響が想定されるものの、影響範囲は限定的である。 防災ステーションとあわせた整備が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の構想や、水辺の賑わいによる地域活性化への貢献が可能 観光やスポーツ利用を目的とした河川内への車両の進入が想定されることから、確実に誘導する必要がある。 施工中の工事車両の動線は確保されており、工事による周辺地域への影響が想定されるものの、影響範囲は限定的である。 防災ステーションとあわせた整備が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の構想や、水辺の賑わいによる地域活性化への貢献が可能だが利用施設が最も近接しているB案より劣る。 観光やスポーツ利用を目的とした河川内への車両の進入が想定されることから、確実に誘導する必要がある。 施工中の工事車両の動線は確保されており、工事による周辺地域(宅地含む)への影響が想定され、影響範囲は他案と比較し広い。 防災ステーションとあわせた整備が必要。
	環境・景観への影響	<ul style="list-style-type: none"> 高水敷の新たな造成(親水護岸整備等)を行うため、他案と比較し、水辺の自然環境への影響が大きい。 特に歴史的景観等に配慮すべき対象物はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備により現状の自然環境の改変を伴うが、水辺の自然環境に配慮した工法等の採用により影響は最小にできる。 特に歴史的景観等に配慮すべき対象物はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備により現状の自然環境の改変を伴うが、水辺の自然環境に配慮した工法等の採用により影響は最小にできる。 特に歴史的景観等に配慮すべき対象物はない。
総合評価	△	○	△	

・比較2案に対して、実現性、アクセス性、経済性など7つの評価軸について評価を実施した。

・総合評価において、実現性、経済性が高く、観光振興への効果も期待でき、地域への貢献度も高いことから、最も妥当と考えられる案は、B.「新山国大橋上流」と評価。

山国川環境整備 【計画段階評価】

4. 複数案の提示、比較、評価 【吉富町地区】

- ・山国川左岸吉富町地区での環境整備の検討にあたり、当該エリアの課題を解消するための対策案について複数案を抽出し、比較した。
- ・複数案は、①マルシェやチャレンジショップ、地域のイベント等が開催できる広い平場が確保できること、②吉富町域であること、の観点から下記2箇所を抽出した。

	A案. 山国川総合グラウンドリニューアル	B案. 幸子団地前公園整備
	【整備テーマ】 アクティブなスポーツ・レクリエーション拠点の創出	
整備の概要		
各地区の位置関係		

山国川環境整備【計画段階評価】

4. 複数案の提示、比較、評価【吉富町地区】

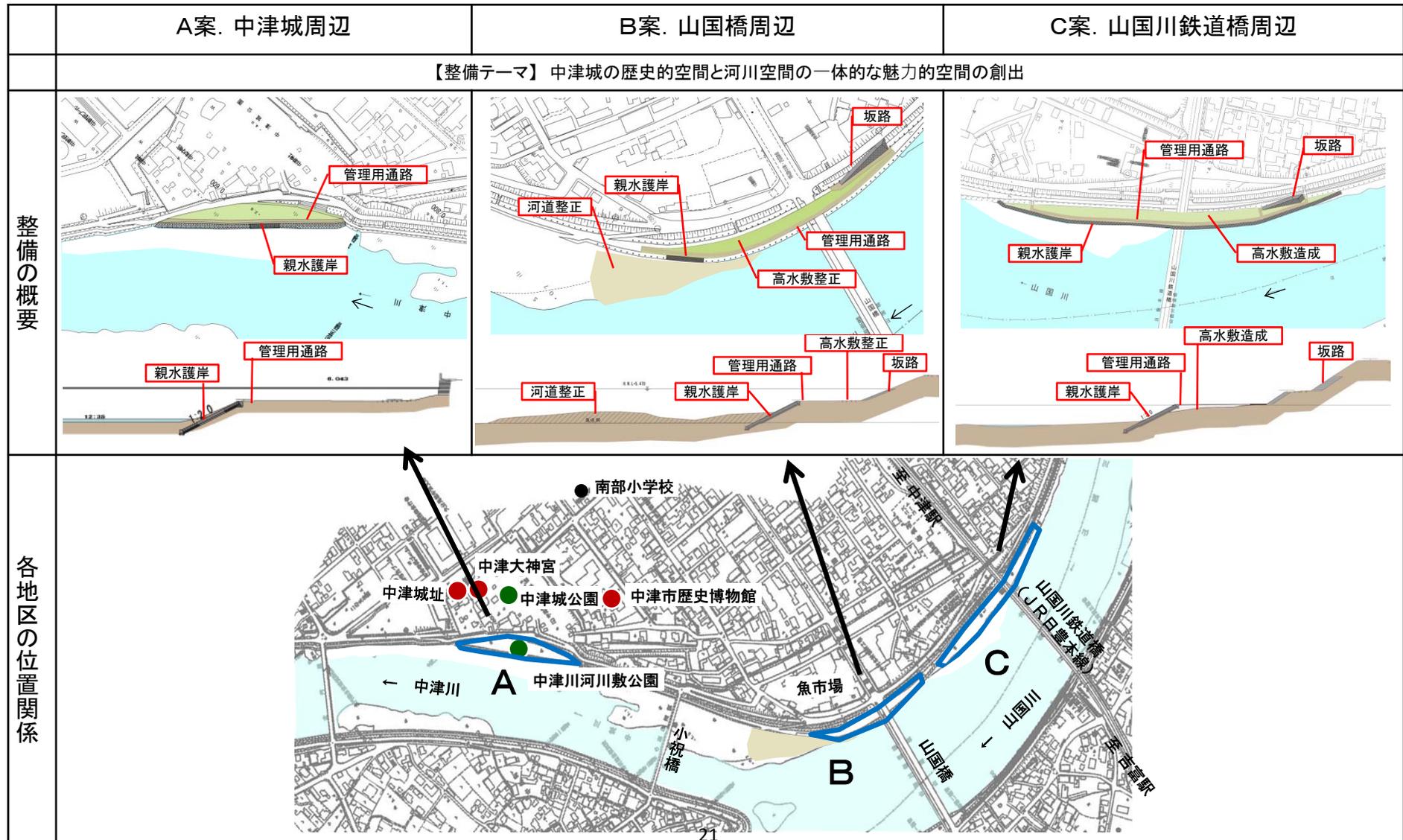
比較案	A案. 山国川総合グラウンドリニューアル (山国川2k 200付近)	B案. 幸子団地前公園整備 (山国川3k 200付近)		
対象地区の特性	<ul style="list-style-type: none"> 山国川総合グラウンドが整備されており、地域イベント等のための広い平場として利用可能。 当該グラウンドは地域住民の散策や憩いの場として日常的に利用されており、吉富町では住民参加の会議にてさらなる利活用の具体化に向けた取り組みが進められていることから、河川空間の利便性が向上することで、利活用の活性化が期待できる。 JR吉富駅から約0.8km JR中津駅から約1.2km。 吉富町や中津市の市街地に隣接しており、これらの利用者の河川利用が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> 山国川左岸内内にある河川用地であり、イベントや地域の環境学習等のための広い平場として利用可能。 JR吉富駅から約1.5km JR中津駅から約1.9km。 吉富町や中津市の市街地からやや離れ、サイクリングルートの周遊路からも離れる 		
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> 階段工 河道整正 管理用通路 坂路 	<ul style="list-style-type: none"> 親水護岸 高水敷造成 管理用通路 床版工 		
評価軸	実現性	<ul style="list-style-type: none"> すでに広い高水敷があり、新たな造成なしでも利用が可能。 今後、キャンプ場やマルシェなどの利用が自治体主体で進められることから、実現性が高く、利用の自立・継続が期待される。 整備により水辺へアクセスしやすくなることで、水辺を含めた利用の実現性も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用にあたり高水敷の造成が必要となる。 現在、未利用地であるため、計画の柔軟性は高い。 親水護岸の整備と調整池を活用した細流、たまりの組み合わせより、水辺により親しめる利用が期待される。 	△
	アクセス性	<ul style="list-style-type: none"> JR吉富駅、吉富町の市街地からの距離が近く、アクセス性に優れる。 中津豊前線(県道)が隣接しており、車でのアクセス性に優れる。 	<ul style="list-style-type: none"> JR吉富駅からの距離が近い。 主要な道路から離れており、A案と比較し車でのアクセス性が劣る。 	△
	観光機能	<ul style="list-style-type: none"> 高水敷にテニスコートやローラースケート場、多目的広場が整備されており、日常的利用や、地域の祭りやイベントの会場として利用されている。 さらに吉富町による利活用具体化の取り組みが進められており、整備により利便性が向上することで、観光拠点としての魅力が向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> 吉富町や中津市の市街地からやや離れる。 周辺に高い集客力を有する施設がないため、観光客等の河川空間への誘引の点でA案に劣る。 	△
	経済性(コスト)	<ul style="list-style-type: none"> B案と比較し安価である。 完成までに要する費用 約2.3億円 維持管理に要する費用 約0.6億円(50年間) 	<ul style="list-style-type: none"> A案に比べ整備費が高い。 完成までに要する費用 約3.7億円 維持管理に要する費用 約0.9億円(50年間) 	△
	維持管理の持続性	<ul style="list-style-type: none"> 適切な維持管理により持続可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な維持管理により持続可能。 	○
	地域社会への影響	<ul style="list-style-type: none"> 地域が推進する「山国川総合グラウンドと一体的な整備」により、地域の構想の実現に貢献可能。 水辺がにぎわい、地域活性化が図られる。 観光やスポーツ利用を目的とした河川内への車両の進入が想定されることから、確実に誘導する必要がある。 施工中の工事車両の動線は確保されており、工事による周辺地域への影響が想定されるものの、影響範囲は限定的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の構想への貢献や、水辺の賑わいによる地域活性化への貢献度はA案より劣る。 観光やスポーツ利用を目的とした河川内への車両の進入が想定されることから、確実に誘導する必要がある。 施工中の工事車両の動線は確保されており、工事による周辺地域(団地)への影響が想定される。 	△
	環境・景観への影響	<ul style="list-style-type: none"> 上流(下宮永堰付近)は、シラスウナギの生息場、アユの産卵場であるため、生息環境に配慮した工法等を採用する必要がある。 特に歴史的景観等に配慮すべき対象物はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備により現状の自然環境の改変を伴うが、水辺の自然環境に配慮した工法等の採用により影響は最小にできる。 特に歴史的景観等に配慮すべき対象物はない。 	○
総合評価	○	△		

・比較2案に対して、実現性、アクセス性、経済性など7つの評価軸について評価を実施した。
 ・総合評価において、実現性、アクセス性、経済性が高く、観光振興への効果も期待でき、地域への貢献度も高いことから、最も妥当と考えられる案は、A.「山国川総合グラウンドリニューアル」であると評価。

山国川環境整備【計画段階評価】

4. 複数案の提示、比較、評価【中津市地区】

- ・山国川中津市地区周辺での環境整備の検討にあたり、当該エリアの課題を解消するための対策案について複数案を抽出し、比較した。
- ・複数案は、①中津城付近に位置すること、②干潟の環境学習等が可能な平場が確保できること、③中津市域であること、の観点から下記3箇所を抽出した。



山国川環境整備【計画段階評価】

4. 複数案の提示、比較、評価【中津市地区】

比較案	A案. 中津城周辺 (中津川0.7km付近)	B案. 山国橋周辺 (山国川1.3km付近)	C案. 山国川鉄道橋周辺 (山国川1.6km付近)	
対象地区の特性	・中津川に面した広い高水敷があり、既に花火大会や環境学習等のイベントに活用されている。 ・観光の中心地である中津城、中津大神宮から約0.1km。歴史博物館のサイクリングターミナルから約0.1km。中津城をはじめとする城下町エリアや中津市街地と隣接している。	・山国川に面した高水敷があり、環境学習等のイベントに活用が期待できる。 ・中津城、中津大神宮から約0.7km。歴史博物館のサイクリングターミナルから約0.7km。近代土木遺産である山国橋や中津市街地と隣接している。	・山国川に面した高水敷を造成することで、環境学習等のイベントに活用が期待できる。 ・中津城、中津大神宮から約0.8km。歴史博物館のサイクリングターミナルから約0.8km。中津市街地と隣接している。	
整備内容	・親水護岸 ・管理用通路	・親水護岸 ・高水敷整正 ・坂路 ・河道整正 ・管理用通路	・高水敷造成 ・親水護岸 ・坂路 ・管理用通路	
評価軸	実現性	・すでに広い高水敷があり、新たな造成なしでも利用が可能。 ・すでにイベントや環境学習などの多様な利用が自治体主体で進められることから、利用の自立・継続が期待される。	・すでに広い高水敷があり、新たな造成なしでも利用が可能。 ○ ・現在、未利用地であることから、計画の柔軟性は高いが、整備にあたっては山国橋(大分県)と隣接するため大分県との調整が必要となる。	△ ・利用にあたり高水敷の造成が必要となる。 △ ・JR橋があることから、整備にあたってJR協議が必要となる。
	アクセシビリティ	・歴史博物館サイクリングターミナルから約0.1kmと最も近いことから、自転車でのアクセシビリティが良い。 ・集客力のある中津城周辺からのアクセシビリティも良い。 ・最寄りの小学校から約0.3kmと最も近く、環境学習等の場としての利便性がよい。	○ ・歴史博物館のサイクリングターミナルからは約0.7kmと、A案と比較しやや離れており、自転車でのアクセシビリティで劣る。 ○ ・中津吉富線(県道)からのアクセシビリティが良い。 ・最寄りの小学校からは約0.6kmと、A案と比較しやや離れている。	△ ・歴史博物館のサイクリングターミナルからは約0.8kmと、A案と比較しやや離れており、自転車でのアクセシビリティで劣る。 △ ・最寄りの小学校からは約0.7kmと、A案と比較しやや離れている。
	観光機能	・中津祇園(花火大会)、干潟を使った環境学習等が行われており、イベント時には観光客等で賑わう。 ・観月祭(城あかり)で河川空間を活用し、水面に映るライトアップされた中津城の演出を図ることにより、観光資源としての一体的な魅力が向上し多くの観光客等の河川空間への誘引が期待できる。 ○ ・歴史博物館のサイクリングターミナルに隣接しており、河川沿いのサイクリングルートに入る際のエントランスとなる位置にあることから、整備による魅力向上の効果は大きい。	△ ・近代土木遺産である山国橋があり、隣接する河川の利便性が改善することで、観光資源としての一体的な魅力が向上する。 ○ ・歴史博物館のサイクリングターミナルから山国川上流方向へ向かう道中に憩いの親水スポットができることで、サイクリストを中心に利便性が向上する。 ○ ・高水敷でのイベントがなく、周辺に高い集客力を有する施設が他にないため、観光客等の河川空間への誘引の点でA案に劣る。	△ ・歴史博物館のサイクリングターミナルから山国川上流方向へ向かう道中に憩いの親水スポットができることで、サイクリストを中心に利便性が向上する。 △ ・高水敷でのイベントがなく、周辺に高い集客力を有する施設がないため、観光客等の河川空間への誘引の点でA案に劣る。
	経済性(コスト)	・最も安価である。 完成までに要する費用 約2.4億円 維持管理に要する費用 約0.5億円(50年間)	○ ・整備費がA案より若干高い。 完成までに要する費用 約2.5億円 維持管理に要する費用 約0.8億円(50年間)	△ ・整備費が他と比較し高い。 完成までに要する費用 約3.3億円 維持管理に要する費用 約0.9億円(50年間)
	維持管理の持続性	○ ・適切な維持管理により持続可能。	○ ・適切な維持管理により持続可能。	○ ・適切な維持管理により持続可能。
	地域社会への影響	○ ・地元が推進する中津城と連携した一体的な整備により、地域の構想の実現に貢献できる。 ・水辺が賑わい、地域活性化が図られる。 ○ ・車両の進入はないため、車両通行に伴う安全性の低下は懸念されない。観光や川遊びを目的とした利用者を中津城等から適切に誘導するためのサインが必要である。 ○ ・工事による周辺地域への影響が想定されるものの、施工中の工事車両の動線は確保されており、影響範囲は限定的である。	△ ・地域の構想への貢献や、水辺の賑わいによる地域活性化への貢献度はA案より劣る。 ○ ・主要な道路が近接することから、観光や川遊びを目的とした河川内への車両の進入が想定され、安全な誘導が必要となる。 ○ ・工事による周辺地域への影響が想定されるものの、施工中の工事車両の動線は確保されており、影響範囲は限定的である。	△ ・地域の構想への貢献や、水辺の賑わいによる地域活性化への貢献度はA案より劣る。 △ ・主要な道路が近接することから、観光や川遊びを目的とした河川内への車両の進入が想定され、安全な誘導が必要である。 ○ ・施工中の工事車両の動線は確保されていないため、工事による周辺地域への影響が想定される。さらに、JR橋があり線路近接工事になるため、JR協議が必要となる。
	環境・景観への影響	○ ・整備により現状の自然環境の改変を伴うが、水辺の自然環境に配慮した工法等の採用により影響は最小にできる。 ○ ・中津市景観計画において、「城下町エリア」の景観計画区域となっているが、景観に配慮した施工等により影響は最小にできる。	○ ・整備により現状の自然環境の改変を伴うが、水辺の自然環境に配慮した工法等の採用により影響は最小にできる。 ○ ・中津市景観計画において、「城下町エリア」の景観計画区域となっているが、景観に配慮した施工等により影響は最小にできる。	○ ・整備により現状の自然環境の改変を伴うが、水辺の自然環境に配慮した工法等の採用により影響は最小にできる。 ○ ・中津市景観計画において、「城下町エリア」の景観計画区域となっているが、景観に配慮した施工等により影響は最小にできる。
総合評価	○	△	△	

・比較3案に対して、実現性、アクセシビリティ、観光機能など7つの評価軸について評価を実施した。
・総合評価において、実現性、アクセシビリティ、経済性も高く、観光振興への効果も期待でき、地域への貢献度も高いことから、最も妥当と考えられる案は、A.「中津城周辺」であると評価。

山国川環境整備【計画段階評価】

5. 対応方針(原案)

(1)福岡県・大分県の意見

●福岡県

【上毛町地区】

本県におきましても、対応方針(原案)のとおり、上毛町地区のかわとまちが融合した環境整備にあたっては、観光機能、経済性、地域社会への影響等のそれぞれの面から「B案新山国大橋上流」の整備が有利であり、これを中心に据えた整備を行うことは妥当と考えられます。

【吉富町地区】

本県におきましても、対応方針(原案)のとおり、吉富町地区のかわとまちが融合した環境整備にあたっては、観光機能、経済性、地域社会への影響等のそれぞれの面から「A案山国川総合グラウンドリニューアル」の整備が有利であり、これを中心に据えた整備を行うことは妥当と考えられます。

なお、計画的かつ効率的な整備に努め、県、地元自治体や住民との連携・合意形成を図りながら、事業を実施するようお願いします。

●大分県

【中津市地区】

意見なし

(2)対応方針(原案)

【上毛町地区】

比較した3案のうち上毛町地区のかわとまちが融合した環境整備にあたっては、観光機能、経済性、地域社会への影響等のそれぞれの面から「B案 新山国大橋上流」の整備が最も有利であり、他の評価項目でも当該評価を覆す要素がないため、「新山国大橋上流」の整備を行うことが妥当と考えられる。

【吉富町地区】

比較した2案のうち吉富町地区のかわとまちが融合した環境整備にあたっては、観光機能、経済性、地域社会への影響等のそれぞれの面から「A案 山国川総合グラウンドリニューアル」の整備が最も有利であり、他の評価項目でも当該評価を覆す要素がないため、「山国川総合グラウンドリニューアル」の整備を行うことが妥当と考えられる。

【中津市地区】

比較した3案のうち中津市地区のかわとまちが融合した環境整備にあたっては、観光機能、経済性、地域社会への影響等のそれぞれの面から「A案 中津城周辺」の整備が最も有利であり、他の評価項目でも当該評価を覆す要素がないため、「中津城周辺」の整備を行うことが妥当と考えられる。

山国川水系学識者懇談会 規約

(名称)

第1条 本会は、「山国川水系学識者懇談会」(以下「懇談会」という。)と称する。

(目的)

第2条 懇談会は、山国川水系河川整備計画(国管理区間)(以下、「整備計画」という。)策定後の流域の社会情勢の変化や地域の意向、河川整備の進捗状況や進捗の見通し等を適切に反映するために、継続的に行う内容の点検及び必要が生じた場合に作成する整備計画の変更の原案について意見を述べるものとする。また、整備計画に基づいて実施される事業のうち、事業評価の対象となる事業について、九州地方整備局長が設置する事業評価監視委員会に代わって審議を行うものとする。

(組織等)

第3条 懇談会は、国土交通省九州地方整備局長が設置する。

- 2 懇談会の委員は、山国川流域に関し、学識経験を有する者のうちから、九州地方整備局長が委嘱する。
- 3 懇談会の委員の任期は原則として2年とし、再任を妨げない。
- 4 懇談会は、必要に応じて委員以外の者に対し、懇談会の場で意見を求めることができる。

(懇談会の成立)

第4条 懇談会は委員総数の2分の1以上の出席をもって成立する。

(委員長)

第5条 懇談会には委員長を置くこととし、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は懇談会の運営と進行を総括し、懇談会を代表する。
- 3 委員長が事故等の理由により出席できない場合には、委員長があらかじめ指名する者が職務を代行する。

(公開)

第6条 懇談会は原則公開とする。公開方法については、懇談会で定める。

(事務局)

第7条 事務局は、国土交通省九州地方整備局山国川河川事務所に置く。

(規約の改正)

第8条 懇談会は、この規約を改正する必要があると認めるときは、委員総数の3分の2以上の同意を得てこれを行うものとする。

(その他)

第9条 この規約に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、懇談会において定める。

(附則)

この規約は、平成28年6月2日より施行する。